



80th CRC Seminar

今回の講師・迎恭輔氏は埼玉大学大学院で博士取得を目指している学生で、相同組換えが比較的容易でゲノム配列情報が利用できるモデル植物であるヒメツリガネゴケを用い、乾燥耐性誘導に対するオートファジーの関与について研究を進めています。今回は、共同研究実施のためCRCに滞在する機会を利用して、迎氏の研究についてお話ししていただくことにしました。ご興味のある多くの皆様の参加をお待ちしています。

迎 恭 輔 氏

(埼玉大学大学院理工学研究科博士課程)

ヒメツリガネゴケを用いた 乾燥耐性誘導機構の解析

Drought tolerance of *Physcomitrella patens*

時間：2013年7月5日（金）16:30～18:00

場所：総合教育研究棟（生命系）1階 遠隔講義室

ヒメツリガネゴケ原糸体をアブシジン酸 (ABA) で処理すると乾燥耐性を誘導することができる。これはABAによって乾燥耐性付与に関わるタンパク質の合成が促進されるためである。一方で、オートファジーを欠損したヒメツリガネゴケは、野生株に比べ、高い乾燥耐性を示す。このことは、オートファジーが乾燥耐性の誘導を阻害するか、ABAによって誘導されたタンパク質を分解するように働いていることを示している。私は乾燥耐性の誘導におけるオートファジーの役割を明らかにしたいと考えている。

(問合先：上村 松生：uemura@iwate-u.ac.jp)